

大学院



山口学芸大学
大学院 HP はこちら



自己に向き合い、他者に向き合う

山口学芸大学教育学研究科・子ども教育専攻は、二木謙吾・初代理事長の提唱された「至誠」という建学の精神のもと、現代の学校現場の諸課題に対応しうる教育者の養成を目指しています。

この目標を達成するためには、まず真摯に自己に向き合い、他者に向き合うことが大切です。ちょうど大樹が天空高く梢を伸ばすため地中深く根を張るように、本学での学びはそのための貴重な機会となります。なにごとにも真摯に取り組むことは、各自に与えられた時を大切に、それぞれの個性を伸ばし、豊かな人間性を育むことを可能とします。

現代の世相はあまりにも移り変わりが早く、とするとその流れに翻弄されることがあります。古き良き伝統を受け継ぐことも大切です。ただし、旧弊に囚われず、また時代に迎合しない立場を確立することこそ大事です。「至誠」を建学の精神とする本学での学びが、その機縁となることを願ってやみません。

2026年4月

学長 岡村 康夫

取得できる免許・資格

小学校教諭専修免許状

幼稚園教諭専修免許状

※既に一種免許状を有している場合のみ、専修免許状を取得することができます。
※学部卒業段階で一種免許状を取得していない場合、山口学芸大学教育学部で開講されている科目を履修することができます。ただし履修できる科目数や単位数には限りがありますので、事前にご相談ください。

アドミッション・ポリシー

- 教育に対する、強い関心と人間に対する深い愛情を有すること。
- 教育実習やボランティア活動など子どもとかわる一定の経験を有すること。
- 文献を精読し、実地調査する等、自ら研究しようとする意欲と専門的な知識を有すること。

取得できる学位

修士(教育学)

修了要件

本研究科修士課程の標準修業年数は2年で、その修了要件は大学院に2年以上在籍し、必修科目12単位、選択科目18単位(以上)の合計15科目30単位(以上)を修得し、且つ修士論文を提出してその審査及び修了認定試験に合格すること。

建学の精神

至誠

「至誠」とは、「真心(まごころ)を尽くす」ということです。

「自らが授かったかけがえのない天分を、

渾身の努力を尽くして最大限に伸ばし高め、

社会に貢献しようとする、人としてのあり方」をいいます。

山口学芸大学大学院は、

「“生きる力”の育成に貢献できる教育者」および「学校現場の課題に対応しうる教育者」
の養成という現代社会のニーズに対応しています。

教育現場の課題で求められる 3つの力

- 1 対応力** 現代の山積みする教育課題に対して、学問的成果を採用し対応する力
- 2 分析力** 幼児教育、小学校教育における様々な論点について、教育現場の実態や子どもの様子に即して分析する力
- 3 創出力** 音楽や造形など、諸芸術の構成要素について文献研究や演習によって再認識し、実践を通して理解を深め、教育現場での教材選択や授業展開を創り出していく力

幅広い教育力、時代に対応する柔軟性を養う

子ども教育の専門大学である山口学芸大学の特質を生かして、より発展的・専門的に研究を深め、その成果を教育現場に反映させていく実践力と応用力を磨きます。

教育学研究科目(2領域)		専門研究科目
教育基盤・発達に関する研究領域 高度な学問的成果に学び教育課題に対応する資質を養成する。		自ら進んで研究する 資質・能力を修得する研究科目
教育原論特論 教育課程特論 教育方法特論 教育心理学特論 発達心理学特論 発達臨床心理学演習	教育臨床心理学特論 福祉・教育特論 特別支援教育特論 東アジア文化論 (4科目以上履修)	教育特別研究 I～IV 学生の研究課題に即して、期ごとに段階的な研究指導を行います。問題意識の明確化、先行研究のレビューから始まり、調査、資料収集、分析、議論等を通じて研究論文の作成、研究成果についての議論を行います。(4科目必修)
幼児教育特論 小学校授業実践特論 小学校授業実践特論演習 指導技術特別演習 表現活動指導演習 歌唱表現演習 歌唱文化特別研究	鍵盤表現特別演習 造形表現特別演習 わらべうたの研究 郷土の美術研究 第二言語習得研究 教育情報科学特論 (4科目以上履修)	

・一部変更される場合があります



山口学芸大学
大学院 HP はこちら

お問い合わせ

山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号
TEL.083-976-3288 入試広報課

